

令和3年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護の方法Ⅰ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1(30)	開講時期	2年後期
担当教員： 服部 千佳 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 手術室・外科病棟での実務経験を活かして、周手術期の生体反応や看護の方法について教授している。					
《科目目標》 周手術期にある人の身体的・心理的・社会的特徴とそれらに応じた看護を学び、周手術期にある人を支援するために必要な基礎的能力を養う。					
《成績評価の方法》 筆記試験・レポート					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ① 高齢者と成人の周手術期看護 1 外来/病棟における術前看護 医歯薬出版 ② 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版 ③ 高齢者と成人の周手術期看護 3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 医歯薬出版					
《授業外における学習方法》 課題学習を行う					
《履修に当たっての留意点》 疾病と治療Ⅴ(麻酔・生体反応、手術)で学習した内容を復習し、授業に臨む 事前学習に積極的に取り組み授業に臨む					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	周手術期看護とは・周手術期の心理過程の特徴・術前検査			講義
2	2	生体侵襲理論・循環器系への影響と看護			
3	2	呼吸器系への影響と看護・消化器系への影響と看護			
4	2	創傷感染・縫合不全の予防と看護			
5	2	術後1日目の看護 ～術後1日目に必要な看護を考える～ ・疾患の理解 ・全体像(関連図) ・フォーカスアセスメント			演習
6	2				
7	2				
8	2				
9	2				
10	2	術後1日目の看護実践 ～術後1日目に必要な看護を実践する～			演習
11	2				
12	2				
13	2				
14	2	術後1日目以降の看護実践 周手術期におけるリスクマネジメント			講義
15	2				

令和3年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年後期
担当教員：平田 めぐみ 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 急性期看護の実務経験を活かして、救急看護・クリティカルケア看護の基礎知識と看護援助方法について教授している					
≪科目目標≫ 疾病の急激な発症や急変によって起こった生命の危機的状態にある患者と家族に対する看護を学ぶ					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫ ① 系統看護学講座：別巻 救急看護学 医学書院 ② 系統看護学講座：成人看護学〔3〕 循環器 医学書院 ③ 系統看護学講座：成人看護学〔7〕 脳・神経 医学書院					
≪授業外における学習方法≫ 文献学習					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	救急看護とクリティカルケアの特徴 救急医療体制と救急搬送システム 救急看護・クリティカルケアの場			講義
2	2	救急外来におけるトリアージ			講義
3	2	対象と家族の心理状態とその関わり			講義
4	2	脳死と臓器移植			講義
5	2	心肺停止とその対応			講義
6	2	ショックとその対応			講義
7	2	急性心筋梗塞の看護①			講義
8	2	急性心筋梗塞の看護②			講義
9	2	意識障害への対応①			講義
10	2	意識障害への対応②			講義
11	2	急性呼吸不全の看護			講義
12	2	救急看護・クリティカルケア看護の専門性			講義
13	2	体位ドレナージ			演習
14	2	気管内吸引			演習
15	2	気管内吸引			演習

令和3年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
担当教員：服部 千佳 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、主な慢性疾患患者の特徴やアセスメントの視点、看護の方法に関する基礎知識を教授している。					
《科目目標》 慢性期・リハビリテーション期にある人の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、セルフケアできるよう自己の力を引き出す看護を学ぶ					
《成績評価の方法》 筆記試験・レポート					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ セルフマネジメント メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況／セルフケアの再獲得 メディカ出版 系統看護学講座：別巻 リハビリテーション看護 医学書院					
《授業外における学習方法》 課題学習を行う					
《履修に当たっての留意点》 疾病と治療で学習した慢性期疾患について事前学習を行い授業に臨む					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	慢性期にある人への看護			講義
2	2	慢性期の概念・病みの軌跡 慢性期にある人の特徴と理解 慢性期にある人への看護援助			
3	2	COPD の理解・酸素カニューレ体験について			講義
4	2	慢性の呼吸器障害を持つ人の看護(COPD)			講義
5	2				
6	2	糖尿病の理解			講義
7	2	慢性の代謝機能障害を持つ患者の看護			講義
8	2				
9	2	血糖測定			演習
10	2	腎臓病の理解			講義
11	2	慢性の内分秘環境調節機能障害を持つ人の看護(腎臓病)			講義
12	2				
13	2	脳血管疾患についての理解			講義
14	2	リハビリテーションを必要とする人への看護(脳梗塞)			講義
15	2				

令和3年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護の方法Ⅳ（終末期）	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位（時間）	1（30）	開講時期	2 年後期
担当教員：中島 加容子 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 終末期病棟を有する病院で看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を行っている。					
《科目目標》 学習目的：看護師が看護実践するために必要な終末期看護の知識について理解する 学習目標：終末期にある人における心身の変化を理解し、心身の苦痛を緩和する看護を学ぶと同時に、自分の死生観を養う					
《成績評価の方法》 筆記試験と「自分の考える終末期看護」の発表および参加					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア メディカ出版					
《授業外における学習方法》 指定した課題を行ってくる。その課題でグループワークを行うことがある。					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	終末期にまつわる言葉の整理 1			講義
2	2	終末期にまつわる言葉の整理 2			講義
3	2	終末期を過ごす場所・死亡の場所の理解、チームアプローチの理解			講義
4	2	死をめぐる倫理的課題の理解（安楽死を中心に）			講義
5	2	意思決定を支える			講義
6	2	終末期におけるトータルペインと看護（スピリチュアルケアを中心に）			講義
7	2	死の受容過程の理解			演習
8	2	死にゆく人の心理過程の理解			講義
9	2	終末期における症状アセスメントと援助方法			演習
10	2	悪液質の理解			講義
11	2	終末期の人の疑似体験（死の体験旅行）			演習
12	2	ターミナル期の状態と看護・家族ケア			演習
13	2	危篤時・臨終時・死亡時の看護			講義
14	2	終末期看護の在り方			講義
15	2	非常勤講師における終末期看護の実際			講義

令和3年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護の方法Ⅴ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1(30)	開講時期	2年前期
担当教員：中島 加容子		実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>			
がん看護を実践してきた経験をもつ教員が講義をおこなう					
《科目目標》 学習目的：看護師が看護実践するために必要ながん看護の知識について理解する 学習目標：がんの病態・治療の特徴、日常生活への影響を理解し、がん患者が安全安楽にその人らしい生活が送れるよう援助する方法を学ぶ					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 系統看護学講座：別巻 がん看護学 医学書院					
《授業外における学習方法》 指定した自己学習は必ず取り組み、効果的に理解を深められるようにする					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	がん看護学の対象となる患者のすがた がん医療の現在と看護①がんを取り巻く状況			講義
2	2	がん医療の現在と看護②がんについて知る ③エビデンスに基づく看護実践			講義
3	2	がんの病態と臨床経過①がんの病態 ②がん患者の臨床経過			講義
4	2	がん患者の看護がんの苦痛に対するマネジメント (トータルペイン)			講義
5	2				
6	2	がんの治療に対する看護①化学療法			講義
7	2				
8	2				
9	2	がんの治療に対する看護②放射線療法			講義
10	2	事例検討①			演習・講義
11	2	がん治療に対する看護：がん治療における看護の重要性			講義
12	2	事例検討②			演習・講義
13	2	がん治療の場と看護：外来などがん患者の療養支援			講義
14	2	事例発表：化学療法 がん化学療法看護認定看護師からの助言・講義			演習・講義
15	2	事例発表：疼痛 がん性疼痛看護認定看護師からの助言・講義			演習・講義